

静岡県漁業協同組合連合会

981 静岡市追手町 9-18
14.2.15 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 「水産総室」設置を石川嘉延知事に要望

本会及び県信漁連では、県議会自民党水産議員の支援を受けて、過般石川知事に対し水産行政を統括する「水産総室」を新設するよう要望しました。

このことは、県が平成10年度に県行政の意思決定の迅速化を目的に、従来の課制を室制にする組織の見直しを行った際、水産関係もそれまでの水産・漁港の両課が3総室、9室に分割され、水産行政を統括する部署がなくなったことから、「水産業に精通した一元的な対応にける面が見られ、水産関係者は戸惑いの中に置かれている」として、平成11年度の県漁協組合長会議で決議された見直し要望に基づき、県当局に見直し要請をした経緯がありますが、本年度に至り県が林業部門を農林水産部から環境部へ移管する組織の見直しを検討している機会を捉え、今回改めて「水産総室」の新設を要望したものです。

これに対し、石川知事から「前向きに対応する」との見解が示されました。

2. 平成14年度通常総会開催 橋ヶ谷善生組合長を再任 - 県棒受網鯖釣 -

県棒受網鯖釣漁業組合(橋ヶ谷善生組合長)では、去る2月8日平成14年度通常総会を開催し、平成13年度事業報告、14年度事業計画等について審議し、総て原案どおり可決承認されました。また、任期満了に伴う役員を選任を行った結果、組合長に橋ヶ谷善生氏(小川・再)が、副組合長には柴原慶治氏(小川・再)が夫々就任しました。

3. 平成14年度通常総会開催 会長に鈴木八十志氏が就任 - 県漁青連 -

県漁業協同組合青壮年部連合会(小林一成会長)では、去る2月8日平成14年度通常総会を開催し、平成13年度事業報告、14年度事業計画等について審議し、総て原案どおり可決承認されました。また、任期満了に伴う役員を選任を行った結果、会長に鈴木八十志氏(松崎町・新)が、副会長には平山敏郎氏(南伊豆町・新)、村松進氏(大井川町・新)が夫々就任することになりました。

4. 平成13年度県漁協青壮年部研修会開催 - 県漁青連 -

県漁業協同組合青壮年部連合会(小林一成会長)では、去る2月8~9日焼津ホテル等において、平成13年度県漁協青壮年部研修会を開催しました。

この研修会は、厳しい漁業環境に対応し、漁協青壮年部リーダーとしての知識を深めるとともに、相互理解を通じて協同活動気運の醸成を図ることを目的に開催されたものです。

研修会には約50人の青壮年部員等が参加し、沖電気(株)官公営業本部担当部長 橋本民雄氏の「IT技術を応用し、最新情報を漁業に生かすために」と題した講演のあと、各漁協青壮年部組織の活動報告や意見交換を活発に行いました。

また、翌日は新焼津漁港に設置された駿河湾深層水取水施設などを視察しました。

5. 平成13年の主要49漁港の水揚量発表 銚子が3年ぶりに首位

農林水産省統計情報部では、このほど平成13年の産地水産物流通統計を発表しました。それによると、13年の主要49漁港の水揚量は、前年統計(42漁港)と比較すると5%減の249万2,000トンで、平均価格はkg当たり164円となりました。

漁港別では、サバ類やマイワシなどの水揚げが好調だった銚子が、前年比18%増の23万7,000トンで3年ぶりに首位に返り咲き、2年連続首位の焼津は13%減の21万6,000トンで首位を明け渡し2位に転落、3位は前年2位の八戸、4位は石巻、5位は釧路となっています。

魚種別では、サバ類が北部太平洋でマサバ、ゴマサバとも前年を上回るなど全国各地で好漁となり32万9,000トン、サンマが漁期当初から好調が続き26万6,000トン、前年不漁だったマイワシが北部太平洋で好転し12万4,000トンと夫々大幅に増加しました。

一方、マグロは三陸沖のまき網クロマグロ漁が資源減少から大きく落ち込んだほか、カツオ、生鮮スルメイカ、カタクチイワシなども減少しました。

6. 「食品の表示にかかる消費者の意識について」の調査結果発表

農林水産省では、このほど平成13年度食料品消費モニター第2回定期調査「食品の表示に係る消費者の意識について」の結果を発表しました。

それによると、12年7月から生鮮食料品の原産地表示が義務付けられたことについて、「表示で産地を確認して買うようになった」とする人が全体の54.2%に上り、「以前よりも産地を確認しやすくなった」が39.3%、「表示が義務付けられたことを知らなかった」は4.7%となっています。

また、13年4月から全ての加工食品の原材料名や賞味期限などの表示が義務付けられたことについても「表示で原材料名や賞味期限などを確認して買うようになった」とする人が49.7%と最も多く、次いで「以前よりも原材料名や賞味期限などを確認しやすくなった」が35.1%、「表示が義務付けられたことを知らなかった」は3.3%となっています。

JASマークについてどのように感じているかでは「品質が保証されているという安心感がある」が77.7%を占め、「商品の品質や表示の仕方が統一されていて分かりやすい」が10.7%、「商品の品質が一目で分かる」が7.6%、「制度があることを知らなかった」は僅か1.0%で、今回の調査から消費者の食品表示に関する意識の高さがうかがえます。

7. 諸会議・日程(2月19日(火)~3月4日(月)) - 既報分省略 -

2月27日(水) 県漁連 = 館内水産団体参事会議 (県水産会館)

〃 県漁船保険組合 = 理事会 (〃)

2月28日(木) 県桜えび漁業組合 = 監査会、役員会、総会 (伊豆長岡町・三溪園)

3月1日(金) 県漁連 = 第6回相良地区3漁協合併研究協議会 (相良町役場)

〃 県旋網漁業者協会 = 監査会、役員会、総会 (伊豆長岡町・三溪園)